坂の上通信

令和元年十一月七日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文芸部（四〇三演習室）

講堂耐震工事 2月まで

新たに鉄骨を溶接し補強

現在美高の講堂は耐震工事に入っており、行事などで使うことができない。今回新聞文芸部は、この耐震工事を行っている新枝建設の工事部長、松根貴宏さんにインタビューを行った。

そもそもなぜ耐震工事が必要になったのか、その理由を尋ねた。

２０１１年の東日本大震災では、多くのホールで吊り天井が落下するなどの事故が発生した。そのため、高さ6m以上、面積２００㎡以上の吊り天井を、脱落によって重大な事故が発生する危険がある天井（特定天井）とし、法改正が行われた。地震の際に大きな被害が出ないようにする、安全のための法律だ。

美高の講堂の天井はこの特定天井に該当するため、今年度約7か月かけて耐震工事が進められている。建物の構造自体は問題がないため、今回は天井だけが工事の対象になっているということだ。

一口に「耐震工事」と言っても、その建物にあった工事を行う必要がある。例えば沼田高校の講堂の耐震工事では、万が一落ちてもけがをしにくい材料を扱っている。

美高の講堂の耐震工事は、従来吊り下げてあった天井を撤去し、新たに鉄骨を溶接して強固な天井を作る、という作業である。こうすることで、より安全な講堂になるそうだ。

作業人数は、通常20人程度。溶接の品質管理に気を配ることはもちろんだが、溶接作業を屋根裏で行っているため、火花が散って火事にならないよう火災防止にも注意を払っているという。溶接の火花が落ちても大丈夫なように、全ての椅子に白い防災シートが被せられていた（写真）。

工事終了は2月下旬。現3年生の卒業式は、新たな講堂で行われる予定だ。

2階入り口から見た講堂内。鉄骨で埋まっている

工事中の講堂を見学

耐震工事の具体的な作業は、天井を撤去し、鉄骨を新たに追加・溶接するというものだ。取材当日（11月1日）は、鉄骨の溶接作業を行っていた。取材後、ヘルメットを着用して講堂内を見学させてもらった。

講堂内は、鉄パイプを組み合わせて天井付近に足場が作られていた。見上げると、隙間からは溶接によって火花が飛び散っている様子も見受けられた。

松根さんに続いて講堂内を歩く

合唱祭 今年度は校外で開催

講堂で行う学年集会や講演会などは、現在体育館などで行われている。もっとも影響が大きいのは、来年2月14日（金）に開催予定の合唱祭だ。

工事の完成には間に合わないため、佐伯区民文化センターの大ホールで行われることになっている。今年度の合唱祭について、生徒会の濵田先生にお話をうかがった。

―場所が例年と異なりますが、心配していることはありますか。

講堂ではなく佐伯区民文化センターで行うので、まず、どこにあるか場所が分かるかということです。会場には自転車置き場が確保できないかもしれないので、公共交通機関で行けるよう下調べをしておいてください。

―ほかに、昨年度と異なる点はありますか。

自由曲は例年通りですが、それに加えて今年度は全クラス校歌の斉唱を行い、自由曲と合わせて審査されます。校歌は1番のみ、指揮のみで伴奏は行いません。

―生徒に協力して行って欲しいことは。

美しいハーモニーを作り出すという課題を理解して、協力してクリアして欲しいです。

昨年度の合唱祭の様子

形容詞な（まる）（まる）

今回は、国語の大関先生にとっての「形容詞な〇〇」を聞いた。お題は「新しい花火」。

―どんなところに花火の魅力を感じますか。

遠くからと近くからではまったく違う「新しい景色」が広がって見えることです。

―どんな花火を見てきましたか。

花火が好きで、毎年いろいろな場所で観賞しています。山の頂上から花火を見下ろすように、また船上から見上げるように観賞したこともあります。フェリーで、車を止める場所から観賞できたので、大迫力の花火が楽しめました。

紹介者	国語・大関先生
形容詞	新しい
対象	花火

船上から見た花火（大関先生提供）

坂の上通信 １００号を達成

今号で坂の上通信は通算一〇〇号を突破した。

新聞文芸部は、校内新聞「坂の上通信」を発行する部活動。年間20号発行を目標として平成26年より発行を続けているが、6年目にして3桁の大台にのったことになる。

平成25年以前の新聞文芸部の活動は、小説を中心とした文芸誌の作成だったが、平成26年度から新聞発行のみの活動に絞り、今日にいたっている。

昨年度以来、校外での発表や他校の新聞部との交流の機会も増え、今年度8月には、全国高等学校総合文化祭さが大会にも参加。また例年は参加賞どまりが多かった中国新聞主催「みんなの新聞コンクール」では、今年度はじめて最優秀賞を受賞した。

部長で2年4組の福田さんは「今後もよい紙面を作っていきたい」と力を込めた。

新聞文芸部　活動の軌跡

年度	部員数	発行号	枚数
２６	５	第1号～12号	12号
２７	１０	第13号～29号	17号
２８	７	第30号～49号	20号
２９	９	第50号～66号	17号
３０	６	第67号～85号	19号
３１	５	第86号～100号	15号

＊部員数は4月現在の数字。
＊31年度の発行号は、11月現在のもの。

美・鈴・鈴・鈴

地震対策として、まず何が思い浮かぶだろうか。何よりも、自分の住んでいる場所にどのような被害が想定されるかを知ることが、身を守る一歩となるだろう。具体的には、県のＨＰなどに掲載されているハザードマップが参考になる ▼夜間に起こる可能性を考えると、家具の固定や家具の上に重いものを置かないなど、部屋の中を見直すことも大切だ。災害時慌てず安全に避難するために、避難場所や経路を家族で確認しておくことや、定期的に避難バックの点検を行うことも重要だ ▼学校では施設の安全点検の他に、避難訓練が行われている。先日も授業中に一斉地震防災訓練が行われた。これは同じ時刻に一斉に行う「シェイクアウト訓練」と呼ばれる ▼命を守るためには、特に「しゃがむ、かくれる、まつ」の3つの行動が大切だ言われている。訓練と思わず真剣に取り組むことが、自分の身を守ることにつながるだろう。

（木村京珠）

編集後記

ついに一〇〇号を達成した。一つの節目ではあるが、今後も一号ずつ歩んでいきたい。